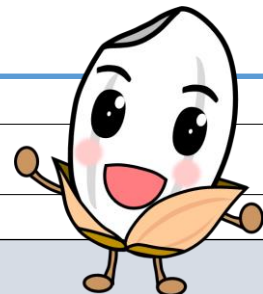


令和6年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第3号 (水稲)

令和6年6月28日発表 (対象期間：令和6年6月下旬～7月上旬)



1- (1)

水稲病害虫の現況と予報 (概要)

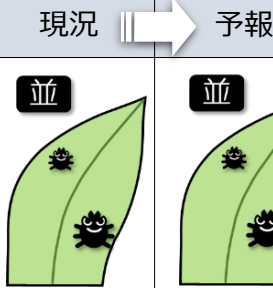
病害虫名		現況 → 予報	防除上の注意事項	
葉いもち <small>※ 中北部とは、 北部、中東部、中西部 を合わせた地域です</small>	※中北部		<ul style="list-style-type: none"> 置き苗は発生源になるので、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。 育苗箱施用剤を処理したほ場でも、発生に注意してほ場の見回りを行ってください。 いもち病に弱い品種では特に注意しましょう。 発生が見られたほ場では、速やかに防除しましょう。 穂ばらみ期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。 	
	南部			
セジロウンカ				<ul style="list-style-type: none"> 今後の飛来によっては発生量が増えることもあるため、注意しましょう。 一部の飼料用米では、特に注意しましょう (北陸193号、タカナリなど) 飼料用米では、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル (農林水産省HPに移動)」を参考に防除して下さい。 要防除水準；幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ				<ul style="list-style-type: none"> 今後の飛来によっては発生量が増えることもあるため、注意しましょう。

① 葉いもち

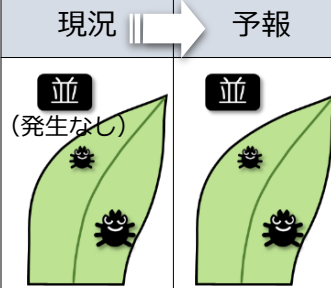
予報の根拠

(+) : 多発要因、(±) : 平年並、(-) : 少発要因

中北部



南部



- 6月下旬巡回調査では、34地点中3地点で発生が見られました (+)。
- 中部地域でも一部発生が見られています (+)。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量が平年並みまたは多くなる見込みです (±)。
- BLASTAMによる累積感染好適日は平年より少なくなっています (-)。

【防除上の注意事項】

- 置き苗は発生源になるので、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。
- 育苗箱施用剤を処理したほ場でも、発生に注意してほ場の見回りを行いましょう。6月以降の田植で遅効性の抵抗性誘導剤を使用した場合、効果が劣ることがあるため、いもち病に弱い品種では特に注意が必要です。
- 葉いもちの防除は、初発確認後の早い時期に防除効果が高くなります。発生が見られたほ場では、速やかに防除しましょう。
- 穂ばらみ期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報」もご覧下さい。



「病害虫図鑑 (普通作物)」

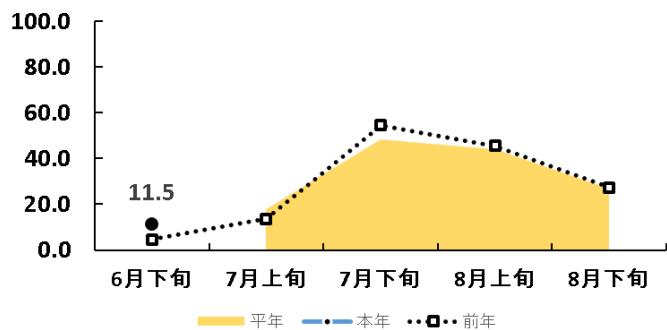
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稻病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

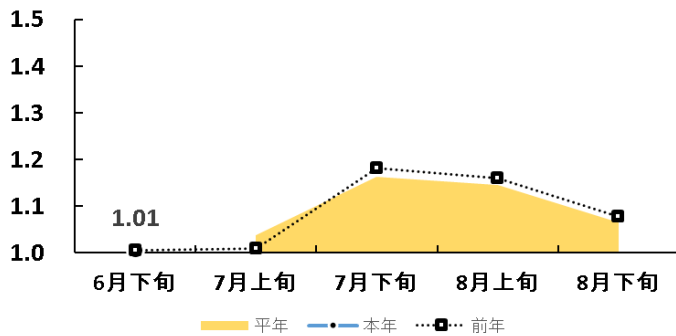
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ】

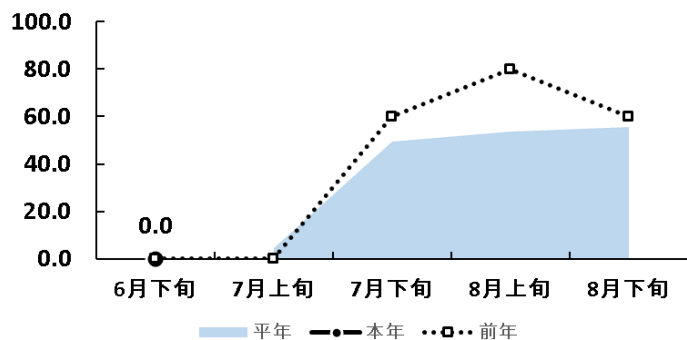
葉いもち 発生地点率(中北部 26地点)



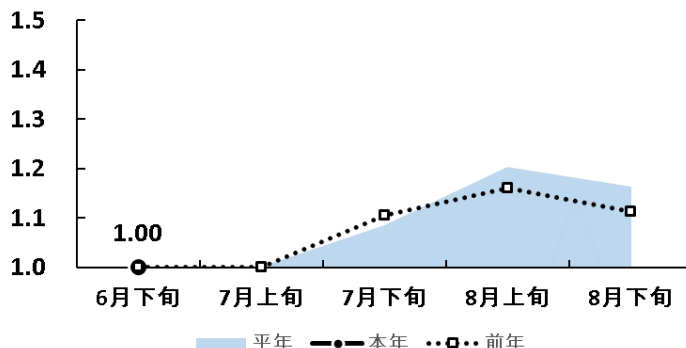
葉いもち 発生程度(中北部 26地点)



葉いもち 発生地点率(南部 8地点)



葉いもち 発生程度(南部 8地点)

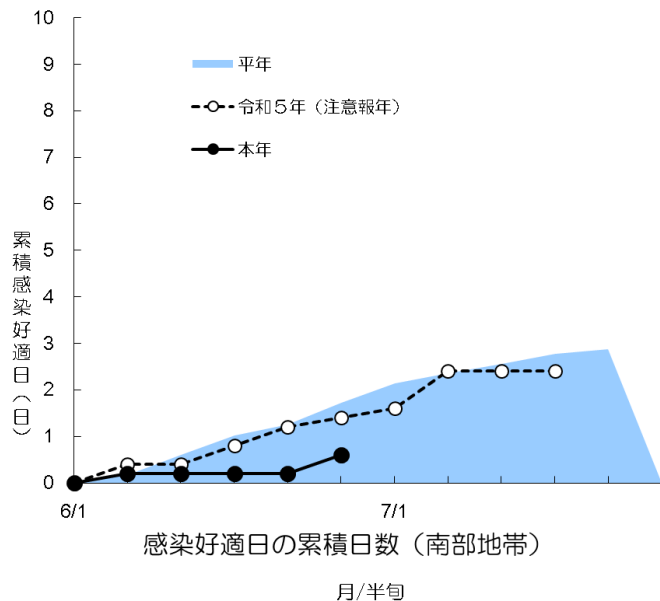
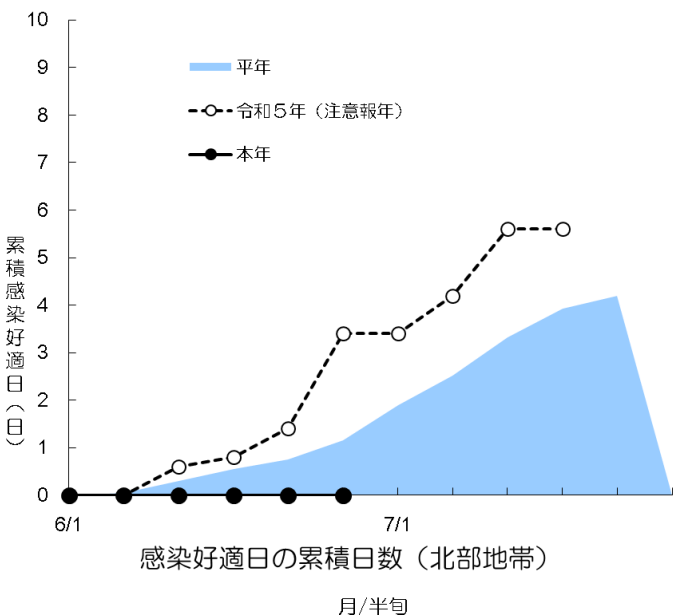
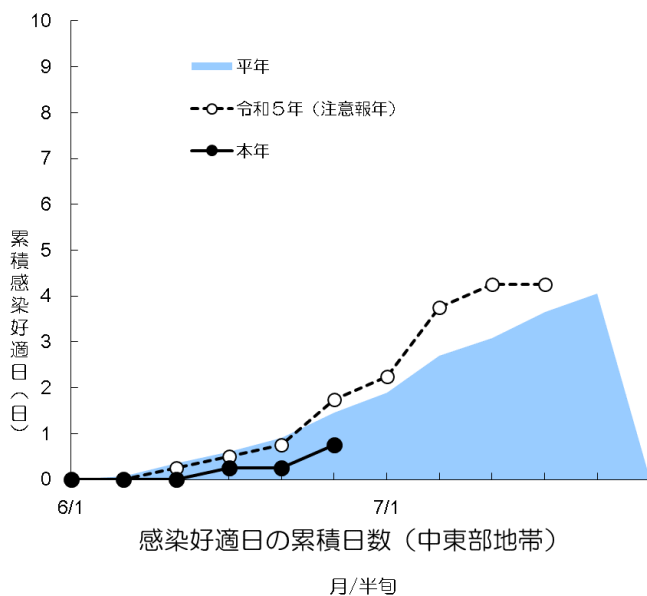
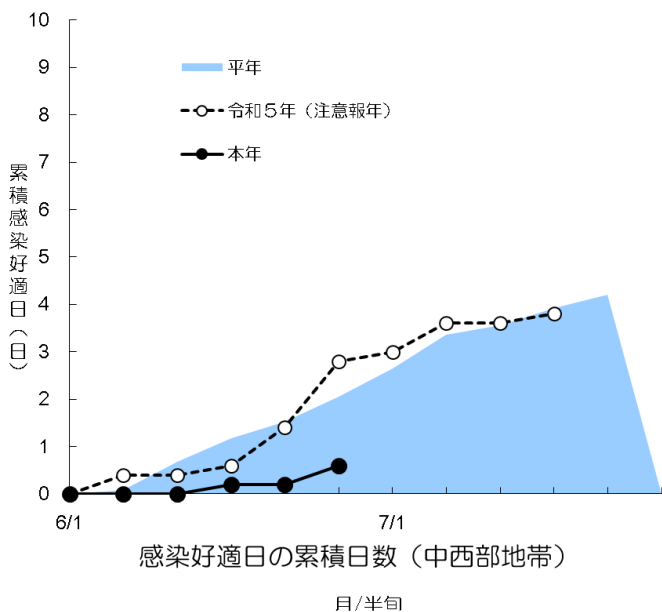


BLASTAMによる「いもち病の危険度」の推定

地帯別「いもち病の感染好適日」の累積日数

※ いもち病の発生しやすさを予測するシステム：BLASTAM（ブラスタム）を用いて、気象庁のアメダスデータ（気温、降水量、風速、日照）から、葉面の湿潤時間を計算し、いもち病が発生しやすい条件となる日：感染好適日を推定しています。

※ 累積感染好適日とは、BLASTAMによる感染好適日を累積したものです。値が大きい程いもち病の発生リスクが高いと予想されます。



② セジロウんカ

現況

予報

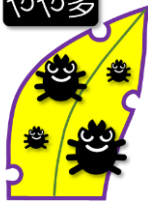
予報の根拠

- 6月下旬巡回調査では、県内の4割近いほ場で発生が確認され、広域に飛来があったと予想されます(+)。
- 予察灯(呉市)では、5月27日に雄成虫1頭が初確認され、6月16日以降、大きな飛来が見られ成虫が計42頭確認されています。(+)
- 予察田(呉市)では確認されませんでした(-)。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く増殖に好適です(+)

並



やや多



- (+): 多発要因
- (±): 平年並
- (-): 少発要因

【防除上の注意事項】

● ウンカ類に卓効を示し長期残効するトリフルメゾピリムなどを含有する箱施用剤を処理している場合、本虫が急激に増殖する可能性は低いと考えられます。

しかし、箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合、田植えが5月上旬までの場合、第1世代幼虫の発生する7月中旬頃にほ場での発生を確認し、防除を実施しましょう。

● 今後も飛来が予想されるため、発生量の増加に注意しましょう。

● 今後の発生状況については、発生予察情報を参考にしてください。

● 要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上

● ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/475204.pdf>

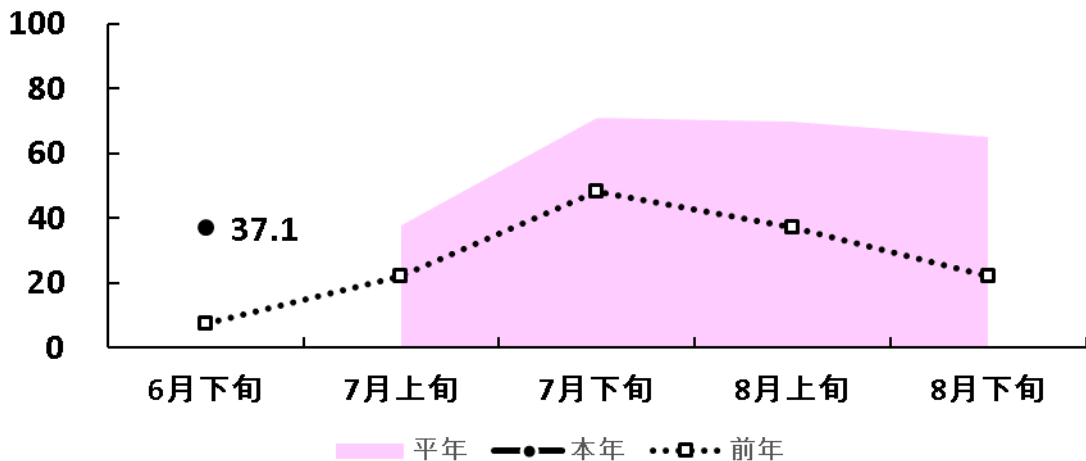


長翅型雌成虫



中老齢幼虫

セジロウんカ 発生地点率(県全域 34地点)



【巡回調査データ】

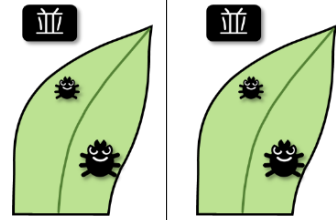
③ トビロウンカ

現況 予報

予報の根拠

(+) :多発要因
(±) :平年並
(-) :少発要因

- 6月下旬巡回調査では、発生は見られませんでした。
- 予察灯（呉市）で、6月24日に雌成虫1頭が確認されました（+）。予察灯（東広島市）、予察田（呉市）では、確認されませんでした（-）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く増殖に好適です（+）。



【防除上の注意事項】

- 5月上旬までの田植えの場合では、箱施用剤の効果が弱まっている可能性があるため、第1世代幼虫の発生する7月中旬頃にほ場での発生を確認しましょう。
- 5月中旬以降田植えの場合では、ウンカ類に卓効を示し長期残効するトリフルメゾピリムなどを含有する箱施用剤を処理している場合、本虫が急激に増殖する可能性は低いと考えられます。しかし、箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合、第1世代幼虫の発生する7月中旬頃にほ場での発生を確認しましょう。
- 今後も飛来が予想されるため、発生量の増加に注意しましょう。
- 今後の発生状況については、発生予察情報を参考にしてください。
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/475204.pdf>



長翅型雌成虫

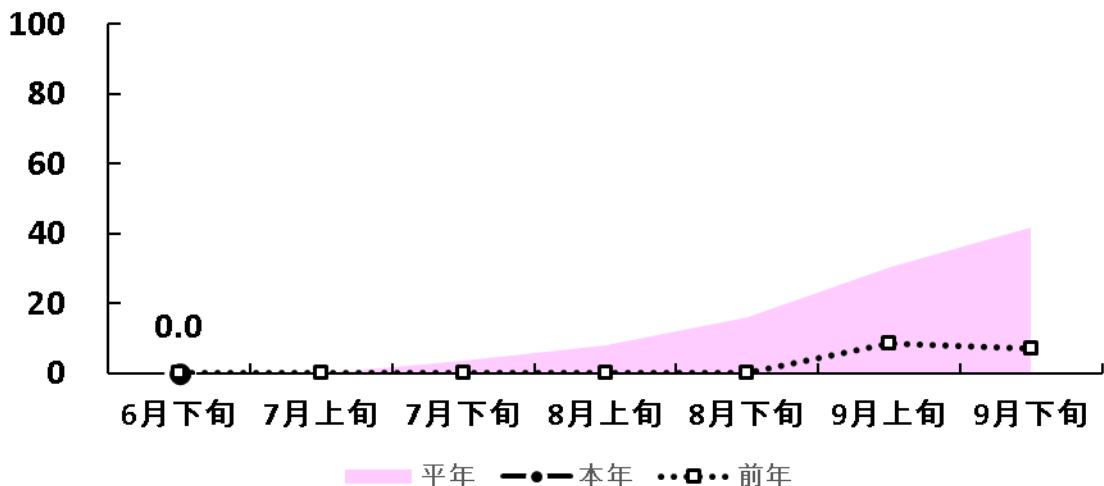


短翅型雌成虫



中老齢幼虫

トビロウンカ 発生地点率(県全域 34地点)



【巡回調査データ】

病害虫名	現況	防除上の注意事項
紋枯病	(発生なし) 並 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月下旬巡回調査では、発生は見られませんでした。 ・ 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。今後、高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは発生に注意しましょう。 ・ 要防除水準、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。
ヒメトビウンカ	少 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出穂前後の防除を徹底し、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
イネクビホソハムシ (イネドロオイムシ)	並 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼虫孵化最盛期に株当たり発生幼虫数が12頭以上の場合は防除を行いましょう。
コブノメイガ	(発生なし) 並 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月下旬巡回調査では、発生は見られませんでした。 ・ 防除時期：穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後、粒剤は発蛾最盛期に追加で防除を行います。
斑点米カメムシ類	やや少 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月中旬の牧草地すくい取り調査では、カスミカメ類は平年に比べやや少なく、その他加害種は平年並み発生でした。 ・ 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。 https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/475208.pdf

(広島地方気象台 6月27日発表、6月29日から7月28日までの天候見通し)

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
特に、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。
- 週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率70%、3~4週目は高い確率60%です。

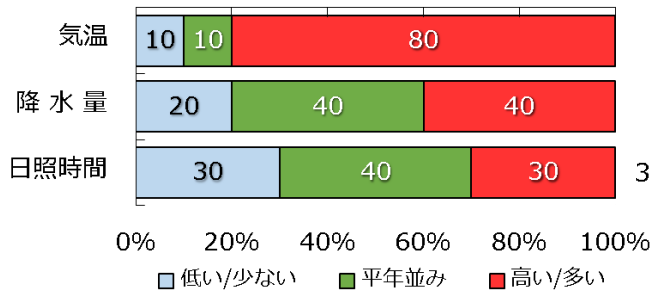


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量
・日照時間の各階級の確率 (%)

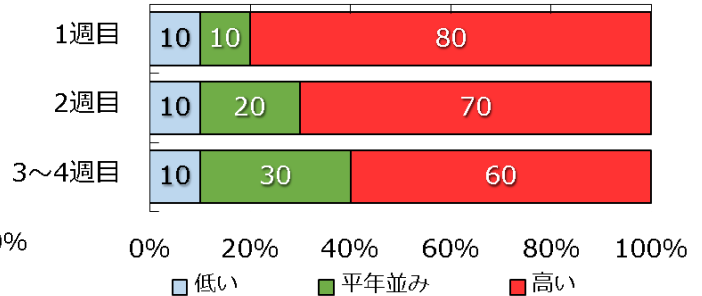
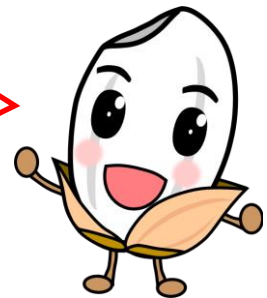


図2. 向こう1か月の気温経過の
各階級の確率 (%)

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や
注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662（直通）